

経営比較分析表（令和6年度決算）

兵庫県地方独立行政法人神戸市民病院機構 アイセーター病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	1	-	-	感
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	5,059	非該当	非該当	10:1

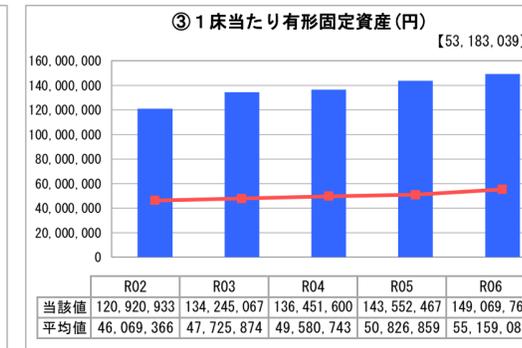
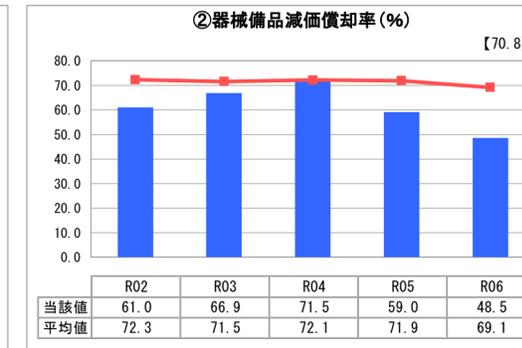
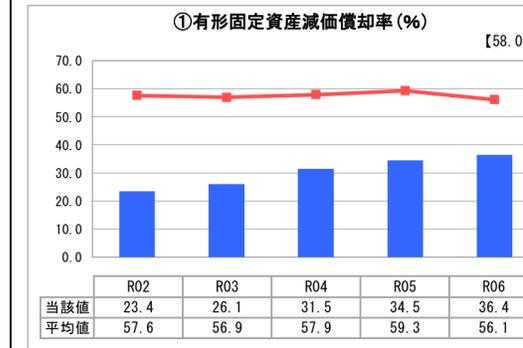
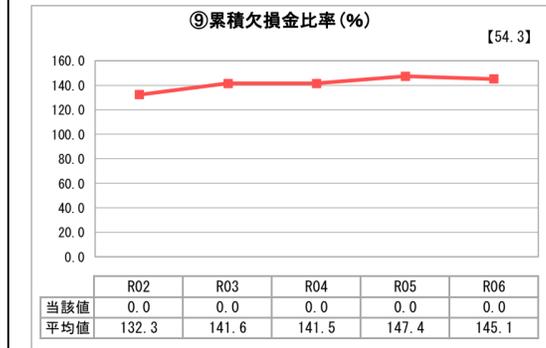
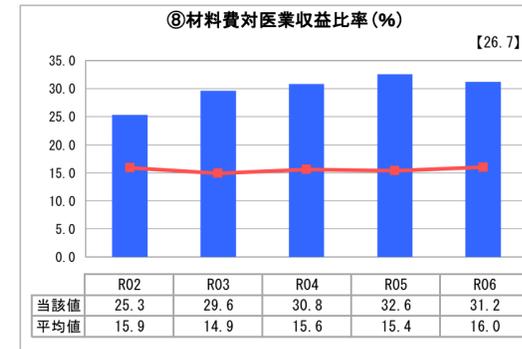
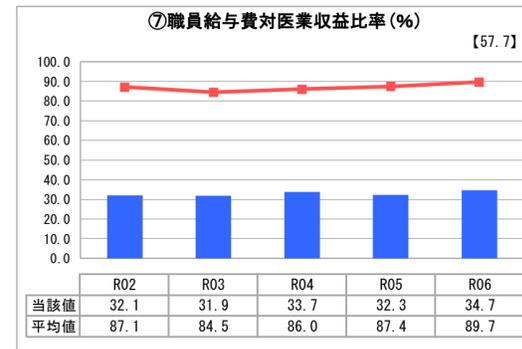
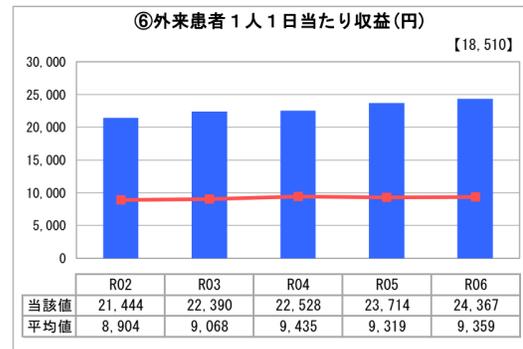
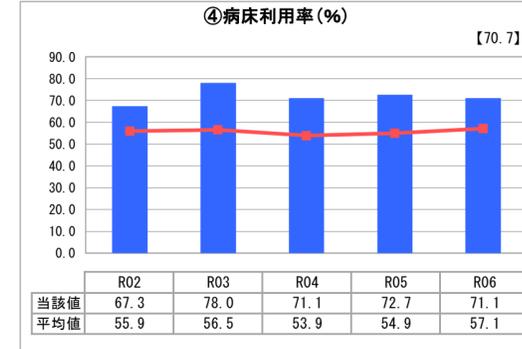
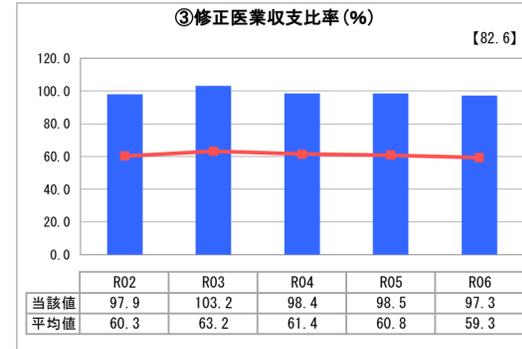
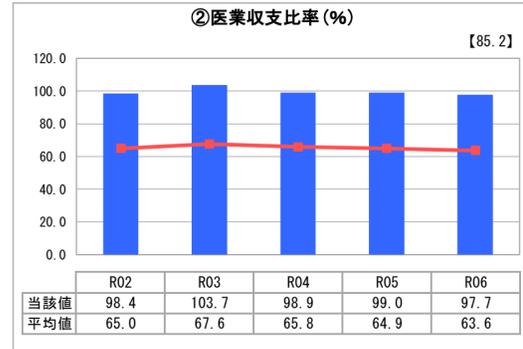
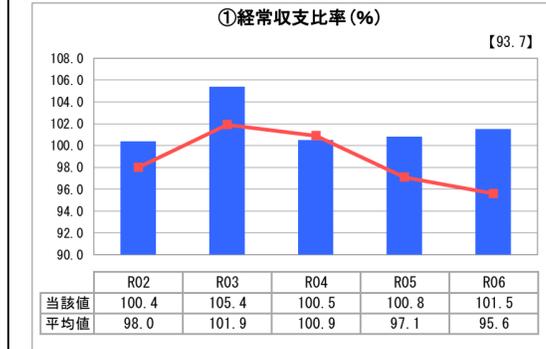
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
30	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	30
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
30	-	30

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

眼科専門病院として、標準医療から最先端の高度医療まで地域医療を高い水準で担うとともに、眼疾患に係る治療・臨床研究を推進する。また、重篤な眼疾患から社会生活への復帰を支援するワンストップセンターとしての役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収入面では、医師の離職などの影響により硝子体注射件数・手術件数が伸びず外来収益は前年度比で減となったが、入院では白内障手術の入院日数を短縮することで病床・手術室を効率的に運用したほか、積極的な診療所訪問による初診紹介患者の獲得など新入院患者数・手術件数の増加に努めた結果、診療単価が増加した。加えて、積極的に研究に取り組んだことに伴い治療収益も大幅に増益した結果、医業収益は前年度より増収となった。

費用面では、研究推進のための人員体制強化による給与費の増加や、手術件数の増に伴う材料費の増加、物価高騰の影響等による委託費や光熱水費の増によって、医業費用が前年度より増加したが、委託業務や物品購入において粘り強く価格交渉を行い一定の削減効果を得られた結果、平成30年度から7年連続の経常損益の黒字を達成した。

2. 老朽化の状況について

平成29年12月の開院時に新たに建物、医療機器等を整備したことから、有形固定資産減価償却率及び器械備品減価償却率ともに平均値を下回っている。開院から7年を経過し、医療機器等の更新を計画的に行っていく。

全体総括

令和6年度は、平成30年度から続く7年連続の経常黒字を確保した。中堅医師の離職により入院・外来ともに延患者数は減少したものの、年度早期に実施した入院手術の運用見直しにより、手術件数と診療単価が向上、入院収益は増収となった。外来では、事務職員による地域医療機関への訪問強化により、紹介患者数が過去最多となった。費用面では、手術件数の増加や物価高騰による材料費の増に加え、看護師、視能訓練士等の増員や研究出向職員の受け入れに伴い給与費が増加した。さらに検査委託費や光熱水費の増等により、経費も前年度を上回った。

iPS細胞を用いた臨床研究の継続や、希少疾患に対する遺伝子治療薬の医師主導治療の準備を進め、標準医療から最先端医療までを網羅する眼科中核病院としての役割を果たす。また、医師・視能訓練士のさらなる増員による医療機能と患者サービスの向上、広報活動や地域連携の強化による増患対策を徹底により、安定的な黒字経営とより一層の経営改善を図っていく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。